

神話スライド s e t シリーズ

# おひつじ座

スライド枚数： 17枚

時 間 : 5分05秒

イラスト : 塚田 洋子

語 り : 寺瀬 今日子

**LIBRA**CORPORATION



+音始まり

00. (タイトル)



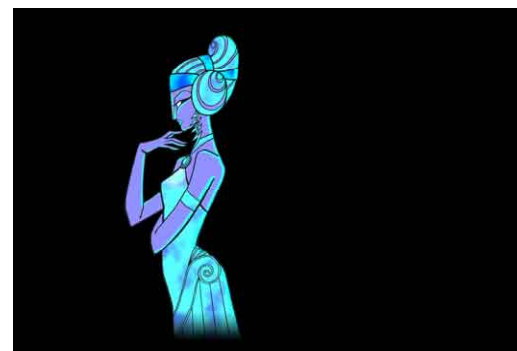
1.

昔、テッサリア王アタマスの子供に、  
フリクソスとヘレという兄妹がいました。



2.

彼らの母、ネフェレーは、国を追われ、  
別の国で暮らしていましたが、子供たちの  
ことを片時も忘れたことはありませんでした。



3.

ネフェレーの代わりにテッサリアの  
お妃になっていたのが、イノーです。

イノーは前のお妃のネフェレーを追い出し、  
新しいお妃になったのです。



4.

イノーはフリクソスとヘレのことをよく思っていませんでした。

特に、イノーに子供がうまれると、ますます二人がじゃまになりました。

そこでイノーは、二人を殺してしまおうという恐ろしい計画を立てたのです。



5.

ある年のこと。

イノーは農民たちが畑にまく麦の種をこっそり火であぶっておきました。



6.

何も知らない農民たちは、いつものように種をまきましたが、火であぶられた種から芽が出るはずがありません。

そのために、その年テッサリアでは麦が一粒も収穫できないという、大変なことになってしまいました。



7.

困った王アタマスは、デルフォイの神殿に使いを送って、神様に麦が実らない理由を聞いてみることにしました。



8.

そこでイノーはその使いをつかまえ、

『フリクソス王子とヘレ王女を  
いけにえに差し出さない。

そうすれば来年からまた麦が  
たくさんとれるようになるでしょう』

という偽のお告げを王様に報告するように  
命じたのです。

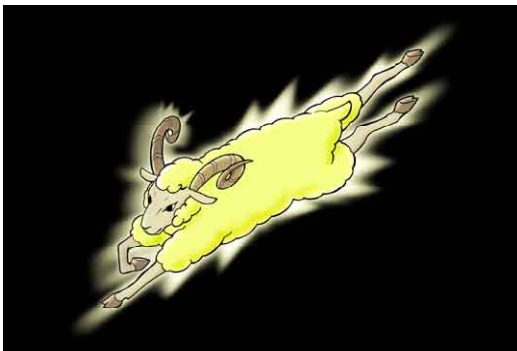


9.

このお告げを聞いて、農民たちは  
いっせいにお城につめかけました。

王様はかわいい子供たちをいけにえにする  
決心がつかず、迷っていましたが、  
農民たちの勢いには勝てません。

王様が泣く泣く子供たちをいけにえに  
差し出そうとした、そのときです。



10.

突然、空から金色の羊が舞い降りてきました。



11.

そしておどろく人々の前で、フリクソスと  
ヘレを背に乗せて空高く飛びあがり、  
そのまま、空のかなたへ消えていったのです。



12.

実はこの金色の羊は、イノーの悪だくみに気づいたネフェレーが、神様にお願いして送ったもの。

子供たちを助けてほしいという母の願いが、神様に通じたのでしょ。

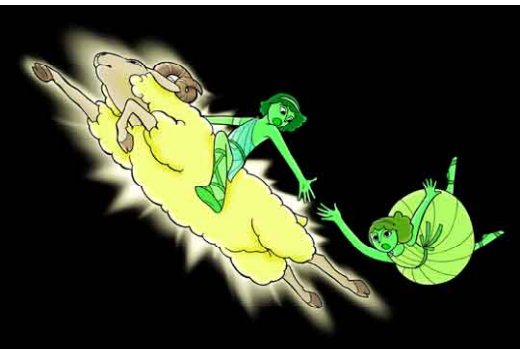
こうしてふたりは、無事テッサリアを脱出したのです。



13.

ふたりを乗せた羊は、ぐんぐんスピードをあげ、海の向こうの国、コルクスをめざして飛んでいきます。

あまりにも羊が速く飛ぶので、ふたりは落ちないようにしっかりしがみつくの必死でした。

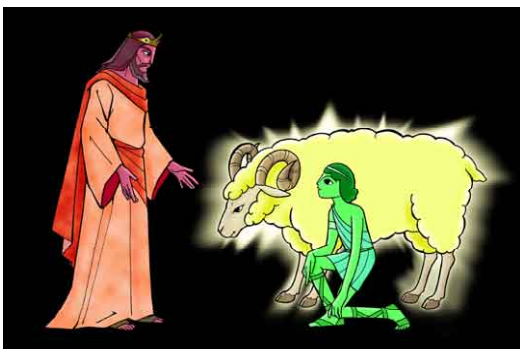


14.

しかし、力の弱い妹のヘレは、とうとうつかまっていられなくなり、その手を離してしまいます。

フリクソスがあっと思う間もなく、ヘレはまさかささまに落ちていき、海に沈んでしまったのです。

フリクソスはとても悲しみました、もう、どうすることもできません。



15.

フリクソスはそのま羊に連れられ、コルクスにたどりつきました。

そして、自分を助けてくれた羊を神様にささげ、その金色の毛皮をコルクスの王様に贈りました。



16.

その金色の毛皮が、のちに天に上げられて、  
おひつじ座になった、ということです。

+音終わり